

# 夜・雪・時間



Chise



もくじ

雪の夜

夜のしじま

何ができるんだろう

同じものから

止められない時間の中で

最後まで



## 雪の夜

真っ黒な夜に細かく、強く降り注ぐ粉雪。  
さわさわ、さわさわと所かまわず降りかかる。

ふと視線を先にやると  
まわりを暖かな空気で包む灯りが見えた。  
リラの丘のてっぺんにある外灯の灯りだ。

耳を澄ますと  
小屋の中から鶏たちの声や  
山羊が動いてる音も聞こえる。  
しんと静かな雪の夜だけど  
みんないるんだね。



## 夜のしじま

夜のしじまに響く波の音  
闇を切り裂く鋭い月の光  
忙しさに翻弄される日々に  
ときどき見失いそうになる  
時のはざまにさ迷うものを  
取り戻すのは  
さびしさと戦う  
こんな静かなひとりの時間



何ができるだろう

何ができるだろう

何ができるだろう

気づくと考えている

若い時は

どうして

なんのために

どうあるべきなのか

ばかり考えていた

吸収が不十分でも

時がくれば

種子を撒きたくなるのだろうか

それが生きた意味になるのだろうか





同じものから

同じものから

ある人は悲しみを

ある人は寂しさを

また、ある人は希望を

拾い取る

なにを感じるかが個性で

なにを拾い取るか選ぶのが

強さだと思う

選択が生き様をつくっていく

だから今はまだ前しか見ない



止められない時間の中で  
止められない時間の中で  
変わり続け  
遠ざかる記憶  
反比例するかのように  
湧きあがる失くしたもののへの  
愛おしさ  
この思いさえ憐憫と  
一笑するのは強さか  
それとも弱さなのか  
すべては形のないものへと  
消えゆく様は  
風の舞うが如し



最後まで

最後まで

自分でありたいと思う  
生まれてきた意味が

あるなら

感情や環境でなく

意志に従って

生きることこそ

自己実現と存在価値は生まれる

そして日々の積み重ねが

生き方であり

人生をつくるのは間違いない

終わりある人生から

絶対逃げない



## あとがき

「雪の夜」は2025年12月に、あとの作品は2018年頃に書いたものです。7年ほどの時間の経過に自分の中の時間の流れを感じます。



